

第4次帯広市食育推進計画策定に関する意見交換会要旨

日 時 令和4年6月10日(金) 10時05分～11時50分

場 所 市庁舎10階第6会議室

参加者 食育推進サポーター 10団体・個人 計11名

○意見交換

テーマ1

若い世代に対する食育の取組について

(若い世代において、食への意識が低いことが明らかとなったことから、原因・背景について、また、今後改善していくためにどのような取組が必要なのか)

○十勝は自給率が1200%の農業王国と言われている割には、若い人が食や農への関心が低いということを実感している。小中学校で食べ物についてもっと熱心に教育した方がよい。

○若い人が農業体験をできる環境づくりをしてもらいたい、機会を増やしてもらいたい。どのような食べ物が健康にどのように影響するかを学べる機会を作っていけたらよい。

○最初の食育推進計画が策定されてから15年以上(ママ)経っているが、アンケート結果を見ると食育がなかなか浸透していない。これからは実践に動いていかなければならない。

○若い世代は学業や仕事などで忙しく、食育を考えて自分でご飯を作ることが難しい。コンビニでは健康志向やダイエット志向の商品などもあり、コンビニの食生活は広く浸透している。コンビニ食と地産地消をどう結び付けていけるか日々考えている。

○小中学校の実技科目の時間数が減らされてきたことなどにより、手仕事がとても減っていると感じる。手仕事をする事の大切さを認識して、カリキュラムに取り入れたらよいと思う。手仕事をする事が楽しいということが伝わるような内容で取り組めたらよい。

○実践的な体験を通して得る知識が少ない。学校で栄養など食に関わることを学ぶ機会が少なくなっている。自分の体に必要なものを必要なだけ食べるということができていない。

○アンケート結果でも孤食する子どもが10%程度いるが、食事は大勢で食べるのが基本。テレビを見ながら食べることも多く、これでは食を楽しめず、消化もされない。

○十勝は1200%の食料自給率がありながらも、農業現場で何が行われているのかを知らない

人が多い。知る機会、体験する機会をもっと作らなければならない。食の大切さを分かってもらうためには、体験することが必要。

○担任の先生が農業に理解を持ち、子どもたちに農業について知ってもらいたいといった気持ちが出てきたらよいと感じる。

○学校農園では毎年同じ作物を栽培し、連作になっている。何学年で何を作るかといった、学校全体としてのアウトラインを考えてもらいたい。

○40年程前に農業改良普及員をしていた時に4Hクラブ（農業青年クラブ）で毎月1～2回研修会を行っていたが、昼食に栄養士の指導を受けて料理をしていた。楽しみながら行う実体験が重要。

○家庭で朝食や夕食を作っているが、作り終わったら食器などを洗ってから食事をしているが、そういった食生活を親が示し、子どもたちが身につけてくれればと感じている。

○若者の食生活については若者に聞かないと分からない。意識の低い人の意見を聞いたうえで次の計画に反映させてはどうか。若者にとって生きるために食育は必要なのかと考える人が多いのではないか。若い人に食育を結び付けるには何が必要なのかが見えない中で計画を策定しても空振りに終わってしまう。

○ロシア問題で食料不足というテーマがでてきたことで、これから先、食料不足を考えなければならない時代に入った。すでに小麦が高騰しているが、農業資材などの高騰もあり、農産物の価格も上がってきている。そういう中で食料不足を意識した計画を策定する必要がある。計画を策定するにあたって、アンケート結果以外の現状把握が必要。

○愛国小学校では6年程前から、全国司厨士協会十勝支部の協力を得て、子どもたち25名と年に2～4回昼食を作るという活動を行っている。考えたメニューから栽培する品目を決めて農作物を栽培し、調理しているとてもよい授業である。

○帯広市の予算900億の5%くらい使っていないとダメではないか。ぜひ予算の5%確保を前向きに目指してほしい。

テーマ2

新型コロナにより食生活や食育活動への影響、今後の取組について

(食育の観点からコロナはどのような影響を与えているのか、また、活動への影響、さらには今後の取組について)

○ランチ&運動という事業で料理を作って提供していたが、コロナにより事業が中止となった。また、感染症対策のため、料理を作らずにレシピを作って、レシピとバランスガイドの説明を行っているが、募集をかけても人が集まらずほとんどできなかった。

○以前は20人程で料理教室を行っていたが、今は人数制限をかけて行っている。少ない人数でも来たら楽しい、よかったという声があるので、この動きが広がっていくように努力をしている。以前は市民の方と一緒に料理を作っていたが、今は会員が作って食べてもらい料理の説明をしている。やはりみんなで料理を作る方がよいと感じている。

○コロナにより料理教室ができなくなっており、現在はデモ形式で作るところを見てもらい個別に食べてもらうようにしているが、来てよかったといった声がある。

○離乳食から介護食まで全ての世代の調理実習など様々なイベントを開催している中で感じることは、小さい子どもの取組が問題化していること。時間に余裕がある高齢者は高い意識をもって食生活を送っているが、働き世代、子育て世代、出産時期については、忙しくどのように過ごしたらよいか分からない人が多いため、そこに力を入れてはどうか。出産から就学までの親子の取組を手厚くすれば、子どもが大人になった時にまた下の世代に繋がっていく。母子を重点的に考えてもらえたらよい。

○高校生、大学生、社会人になりたての年代、子育て世代のような若い世代は何が困っているのか、なぜ食育に取り組めないのかについての本音を聞く機会があればよい。親の管理下から離れた世代(高校生以上)の食生活は問題が山積みであるため、実態を知りたい。リアルな声が聞ける場づくりをしてほしい。

○結婚し、子育てをすると子どもに合わせた食生活を急にはできない。コロナ禍により母親学級などが無くなり、母親の不安が大きくなっている。地域の未来を考えると子育て世代を大切にしていかなければならない。

○小学生を対象に動画を作って食育についてしっかり伝えている。スマホを見ながら食事をする人も多いが、時代に対応しながら、動画などを活用して少しでも伝えていきたい。

○色々な団体が連携した取組を行うことで帯広市を盛り上げていければよい。農業をするだけでなくその先の食事についてももしっかり考えていければよい。

○アンケートは控えめになるのでPTA連合会などで各校1人ずつ出してもらい意見を聞いて予算要求していったらよいのではないか。小さい子どもを育てていかないと将来の十勝は成り立たない。生きていくためには食べていかなければならないため、食育は素晴らしいこと。コロナやロシア問題が表面化しているこの機会に食育を考えていかないといけない。

○ひとりで食べる孤食は消化が良くない。和気あいあいとした中で食事をすることで消化がよくなる。人と集まって楽しく食事をする機会が減ってきた。学校給食でも給食の時間が限られているため、食の楽しみが無くなってきている。楽しく食べるのが食である。

○学校教育現場においてコロナ禍で食育のイベントが減る要因として、帯広市の教育の中で食育の優先順位が低いことによると思われる。これまで食育活動を行っていてクラスターが発生したことはなく、通常の学校活動とそれほど変わらないと思われる。帯広市の教育関係者の中で食育の優先順位を上げるような議論をしてほしい。

○十勝で生まれ育つと自動的にスケートが滑れるようになる。同じように十勝で生まれるとパンが作れる、料理がうまくなる、ピザが作れるといったような分かりやすい方針があったらみんな楽しいと思う。楽しみながら食育をやっていきたいと思う。